

愛媛県新居浜警察署協議会会議録

(平成30年度第2回)

日時	平成30年11月20日（火曜日）午後4時00分～午後5時15分
出席者	1 警察署協議会側 会長以下8人 2 警察署側 署長以下11人
議事概要	1 会長挨拶 皆さんこんにちは。会長の伊東です。開催に当たりまして一言御挨拶申し上げます。 警察の皆様方におかれましては、市民の安心安全のために、日夜、事件事故の対応に苦勞されていることに感謝申し上げます。特に、新居浜祭りの対応は大変だったと思いますが、残念ながら今年も逮捕者が出る結果となってしまいました。この結果を受けて周囲に聞いてみたところ、新居浜祭りで喧嘩は当たり前と考えている人もいるようで、祭りの在り方も一考が必要ではないかと思います。 今年は豪雨災害、地震、大型台風と立て続けに災害が発生いたしました。自然現象であり仕方がないところではありますが、災害に対しては事前にどのような対策をしなければならないか、災害が起きた時には、どのような対応をしなければならないか改めて考えさせられました。これは市民一人一人が自覚を持って考えていかなければならないことと思います。 本日は署長から「各種サイバー犯罪対策」について諮問がありますが、サイバー関係に詳しい方もおられますので活発な意見をお願いいたします。 なお、先ほど交通危険予測（KYT）システムを体験しましたが、いかに反射神経が鈍り、些細なミスをしているか分かり、安全運転を心掛けなければならないと痛感しました。今後さらに交通安全教育に活用してほしいと思います。 最後になりますが、年末も近づいてまいりました。皆様方の御健康と平穩な生活を過ごせるよう祈念しまして挨拶とさせていただきます。 本日は有意義な会議になりますようよろしくお願いいたします。

議 事 概 要	2 署長挨拶 本日は会長を始め協議会委員の皆様にはお忙しい中、出席いただきありがとうございます。 まず、私から最近の新居浜署管内の概況を簡単に御説明したいと思います。 8月までは、管内で大きな事件や事故の発生はありませんでしたが、皆様も御承知のとおり、9月14日、市内喜光地町で殺人事件が発生しました。犯人はその場に駆けつけた警察官が逮捕しておりますが、被害者の御遺族の負担軽減を図るための被害者支援活動を事件発生直後から現在も実施しております。10月に入ってから、新居浜祭典警備、愛媛県知事選挙違反取締りと続きました。 一方、交通事故では、発生件数及び負傷者数は昨年 비해減少しているものの、2月21日以降240日余りにわたって発生がなかった死亡事故が、10月24日から11月7日までの短期間に連続して3件発生し、交通事故で亡くなられた方が4人となり、昨年1年間と同数になっております。 現在、当署では、交通死亡事故など重大事故抑止のため、幹線道路における速度抑制対策、横断歩行者及び自転車利用者の安全対策を柱に指導取締りを行うと共に、関係機関等と連携して、交通安全への広報啓発活動に積極的に取り組んでいるところであります。 さて、本日は平成30年度の第2回協議会であり、後ほど、各課長が6月から9月までの業務推進結果報告と、10月から（翌）1月までの業務推進計画とを併せて、報告させていただきます。 そして、今回の諮問は、近時、自治体、公共機関や企業だけでなく、ウィルスメール、不正アクセスでのパスワード乗っ取りや通信ネットワークを利用した犯罪など一般家庭にまで脅威を与えている「サイバー犯罪対策」としております。 これは、決して他人事ではなく身近なことであると認識していただき、その対応を講じるためにも、皆様の忌たんのない御意見をいただき、警察業務に反映させたいと思います。 本日は、よろしくお願いいたします。 3 業務推進結果等の説明 平成30年6月から平成30年9月までの業務推進結果、平成30年10月から平成31年1月までの業務推進計画について各課長が説明、報告した。
------------------	--

4 諮問及び答申

諮問	答申
「ネット詐欺の防止など各種サイバー犯罪対策」について	民間のサイバーパトロールを増やし、自分たちで守るという意識を醸成すべきである。
	学生や児童・その保護者を対象に、日常のネット利用に潜む具体的危険を示した教室を行ってはどうか。
	高齢者のネット利用も増えており、高齢者に特化した上記同様の教室を開催してはどうか。
	危険を知らせ、対処能力を高めるための、セキュリティ講座等を開催してはどうか。
	高齢者が分かりやすい被害防止の広報ビラを作成し、広報・啓発活動を行ってはどうか。
	スーパーや銀行のＡＴＭ前等に被害防止ビラを貼り、視覚に訴える広報を行ってはどうか。
	サイバー犯罪を今以上に厳罰化できれば、罪悪感が高まり、犯罪が減ると思う。

5 その他

会議に先立ち、警察業務についての理解を深める活動の一環として、近年、交通安全啓発の現場で活用が進みつつある「交通危険予測（ＫＹＴ）システム」を体験した。

【交通危険予測システム体験状況】



【会議の状況】

